**令和３年度　木材利用優良施設コンクール　応募施設**

応募様式

※　本様式の記載に当たっては、欄外の「応募様式の記載に当たっての注意事項」、「その他留意事項」をよくお読みいただき、間違いのないように記載してください。

メール送付先：contest-2021-accept@zenmoku.jp

＜必須記載事項＞（注１）

|  |  |
| --- | --- |
| 施設名・用途(注２) | 名称：　　　　　　　　　　　　　　　　用途：　　　　　　　 |
| 施設の所在地・　連絡先（電話番号） | 〒TEL |
| 連絡先 | 担当者名・所属 |  |
| 電話・FAX・Email | TEL　 | FAX　 | Email　 |
| 施主 | 事業実施主体名(施主:担当者名) |  |
| 住所(郵便番号) | 〒TEL |
| 設計者 | 設計者名(担当者名) | ※　設計者が複数の場合は、代表者以外の会社名、住所(郵便番号)、担当者名、電話番号を別紙(様式適宜)で提出してください |
| 住所(郵便番号) | 〒TEL |
| 施工者 | 施工者名(担当者名) | ※　ＪＶ等施工者が複数の場合は、代表者以外の会社名、住所(郵便番号)、担当者名、電話番号を別紙(様式適宜)で提出してください |
| 住所(郵便番号) | 〒TEL |
| 登録木材関連事業者の該当の有無(注３) | □該当あり（登録事業者名：　　　　　　　　　　　　　）□該当なし |
| 施設概要等 | 工期 | 平成・令和　　年　　月　～　平成・令和　　年　　月（竣工：平成・令和　　年　　月） |
| 主要構造（該当するもの全てにチェック） | □木造（□軸組工法　□枠組壁工法　□丸太組工法　□その他（木造ラーメン構造））□鉄骨造　□鉄筋コンクリート造　□鉄骨鉄筋コンクリート造　□その他　 |
| 内装木質化 | □該当する　　　　　　□該当しない |
| 防火地域等の区分 | □防火地域　□準防火地域　□法22条区域　□その他の区域 |
| 耐火建築物等の要件 | □耐火建築物　□イ準耐火建築物(1時間)　□イ準耐火建築物(45分) □ロ準耐火建築物1号 □その他の建築物　 |
| その他の耐火要件 | □準耐火建築物における燃えしろ設計の活用（□JAS構造用製材、□JAS構造材集成材、□CLT,LVL、□その他）□S26建設省の別棟通達の利用 |
| 階数 | 地上　　　　　　階　・　地下　　　　　階 |
| 延面積(a) | 　　　　　　　　ｍ2 |
| 建築工事費(b)（注４） |  千円　うち補助事業費：事業名　　　　　　補助金額　　　　　　　　事業名　　　　　　補助金額 |
| 木材使用量(c) | 　　　　　　　㎥ |
| 単位床面積あたりのコスト(b/a) | 　　　　　 円／㎡ | 単位面積あたりの木材使用量(c/a) | 　　　　　 ㎥／㎡　 |
| 主な木材使用部位・部材と使用樹種、産地等 |  |
| ＜詳細説明事項＞（注５） |
| 地域の木材を持続的かつ有効に活用するための工夫 | 地域等から安定して木材の供給を受けるための連携体制の構築 | （留意点）以下のような連携体制等について具体的に記載すること。・〇〇地域協議会を結成し、川上から川下の連携による地域材の調達体制を構築。・地域材コーディネーターが原木生産者と木材加工会社を仲介した木材を使用。・〇〇森林組合と〇〇木材加工会社が協定を結び、安定的な原木供給体制を構築しており、当該木材加工会社の材を使用。・消費地（建設地）と原木や木材の産地が協定を結んで連携し、消費地における当該産地材を用いた建築を促進する体制を構築しており、当該連携において材を調達。 |
| 大径材、新たな木質系材料や部材の開発や使用を含め、木材資源の有効活用・高付加価値化に寄与するような取組 | （留意点）以下のような取組について具体的に記述すること。・材の特性（樹種、径級、長さ等）を活かした〇〇〇〇の部材を開発し、本施設の××に用いた。・既存ストック木材や、間伐材、風倒木、小径木、端材等を積極的に△△に活用した。 |
| 地域材を多く利用する工夫（木造施設については、単位面積当たりの地域材使用量も記述） | 地域材使用量（　　　㎥）（単位面積当たり　　㎥/㎡） |
| クリーンウッド法に基づく登録木材関連事業者からの木材の入手や、登録木材関連事業者による施工 | （記載例）・当該建築物の建設工事において、地域材の調達に関わった者又は施工者のうち以下の者はクリーンウッド法に規定される登録実施機関である。　・●●木材株式会社　・○○〇建設株式会社　 |
| 建築物の木造化・木質化のための工夫 | 木質構造等の新たな提案 | （留意点）以下のような観点で具体的な提案を記載すること。・CLT等について、構造耐力上主要な部分への活用方法（告示に基づくもの、それ以外のもの）、それ以外の部分への活用上の工夫・４階建以上の中高層建築物における構造や造作上の工夫 |
| 他の施設への普及が見込まれる木質構造の採用（木造施設については、単位面積あたりの建築コスト等） | （留意点）・同様の仕様・設計による類似施設への応用や非木造との比較よるコストダウンの工夫（具体的なデータを含む）等、普及が見込まれる内容とその理由について記述すること。 |
| 防耐火面での提案・工夫 | （留意点）・建築基準法の改正による木造建築物等の耐火性能に係る制限の合理化等を踏まえた取組や独自の工夫、その効果等について記述すること。 |
| 劣化対策や維持管理・更新の容易性を確保する措置 | （記載例）・長期利用に耐えうるよう〇〇の処理・加工を行った部材を開発し、外壁に活用・これまで活用が進んでいなかった〇〇の用途（や部位）に、当該木質材料の△△の特徴を活かし××の工夫をすることにより採用　等 |
| 木材利用による地球温暖化防止等への貢献 | 建築物の使用に係るエネルギー効率（定量的に表記） | （留意点）・木材の断熱性等の特性を踏まえ、木質構造、内装木質化の採用や構造上の工夫による省エネ効果等を同様の施設を非木造で建築した場合と比較する等により定量的（電気使用量等）に記述すること。 |
| 利用した木材を生産した森林における再造林等、資源循環への配慮 | （記載例）・SGEC・FSC認証を取得した木材を使用・〇〇森林組合との間で、再造林を行っている森林から生産した木材を供給することについて協定を結んでおり、当該森林組合から購入した材を使用　等 |
| 木材利用による炭素貯蔵、CO2削減や省エネ等環境への効果（定量的に表記） | （記載例）・使用した木材の炭素貯蔵量（炭素トン）・同様の施設を建設する場合に用いる他資材を製造する場合に要するエネルギーとの比較（熱エネルギー量や電力使用量等） |
| 建築時や将来的な廃棄における廃棄物の発生低減への配慮 | （留意点）・建築時に発生した木質系廃棄物のリサイクルや、建築物を取り壊す際の３R（廃棄物の発生抑制（リデゥース）、再使用（リユース）、再利用（リサイクル））に配慮した工夫等について具体的に記載すること。 |
| デザイン等における工夫 | 階層の高低によらず木材の良さを伝える工夫 | （留意点）以下のような観点で具体的に記載すること。・照明や空調設備の配置など、木の良さを引き立てる空間づくりの工夫・木質材料ならではの色合いや表情の違いを活かしたデザイン上の工夫　等 |
| 他の施設への普及が見込まれる木質デザインの採用 | （留意点）・採用した木質デザインについて、低コストであること、施工・加工性が容易であること等により、普及可能性の高いことを具体的に記載すること。 |
| 木材の特性が活かされた新たなデザインの提案 | （留意点）以下のような観点で具体的に記載すること。・木質材料ならではの経年変化をも見越した空間づくりの工夫・他資材を使用の場合には採用しないが、木材故に採用したデザイン　等 |
| 地域の景観や特性を踏まえたデザインの採用 | （留意点）・地域の景観や歴史、文化等の特性を踏まえ、地域に調和する施設とするための工夫や採用したデザイン等について具体的に記載すること。 |
| その他のアピール事項 | （記載例）・建築コストの縮減や工期の短縮に係る工夫と効果・当該建築物等の実現に当たって苦労した点、努力した点と得られた効果・地方創生面での具体的な効果・維持管理や更新を容易とする設計上の工夫　・利用者の評価（なるべく具体的に）・全体コンセプトの中で、施設の用途を踏まえ、素材として木材を採用した理由とその評価　等 |
| 備　　考 | ・別紙写真ファイル添付シートへ写真を添付して下さい(注６)。・パンフレット等がある場合は、参考資料として添付してください。ただし、審査に向けてアピールしたい内容等については必ず様式の記載欄に分かりやすく具体的に記載してください。 |

|  |
| --- |
| ＜写真ファイル添付シート＞　～１ページ目（注６） |
| 1. 施設全景
 | 備 考 |
|  | 撮影箇所、特徴、ポイント等 |
| 1. 木造施設で特徴となる箇所（例、構造面、利用面等）
 | 備 考 |
|  | 撮影箇所、特徴、ポイント等 |

|  |
| --- |
| ＜写真ファイル添付シート＞　～２ページ目 |
| 1. 施設内部箇所（例、部屋、ホール、天井等）
 | 備 考 |
|  | 撮影箇所、特徴、ポイント等 |
| 1. 施工途中での木構造等（あれば）
 | 備 考 |
|  | 撮影箇所、特徴、ポイント等 |
| ＜写真ファイル添付シート＞　～３ページ目 |
| 1. その他１
 | 備 考 |
|  | 撮影箇所、特徴、ポイント等 |
| 1. その他２
 | 備 考 |
|  | 撮影箇所、特徴、ポイント等 |

|  |
| --- |
| 応募様式の記載に当たっての注意事項 |

（注１)

「必須記載事項」は全項目の記載をお願いします。記載されていない項目がある場合は、審査対象となりませんので、ご注意ください。

（注２）

 施設の用途は、

|  |
| --- |
| 1. 学校等施設、　　　　② 研修、多目的交流等施設、　③ 保育園等施設、

④ 庁舎、事務所等施設（商業建物施設含む）、　　　⑤ 保健、保養等施設、　　⑥ 住宅団地等施設、　⑦ 体育館等施設、　⑧その他の施設（ガードレール、木橋、堰堤、工場建物、街づくり施設等） |

のいずれかを記載して下さい。

（注３)

登録木材関連事業者とは、合法伐採木材の利用の適切かつ確実な取組みを登録実施機関に申請し登録された木材関連事業者です。JVで施行した場合、その中に登録木材関連事業者が含まれている場合は、その企業名を全て記載してください。

（注４）

　建築工事費は、応募作品の躯体工事費、仕上工事費、土工・地業工事費及びこれらに係る仮設工事費の合計を記入してください（※　電気設備工事費や機械設備工事費は含めないでください）。

（注５）

本コンクールの審査では、「詳細説明事項」が重視されますので、具体的な内容を正確かつ簡潔に記載してください。

（注６)

 写真は、

|  |
| --- |
| 1. 施設全景
2. 木造施設で特徴となる箇所（例、構造面、利用面等）、
3. 施設内部箇所（例、部屋、ホール、天井等）
4. 施工途中での木構造等（あれば）
 |

3～6枚程度を＜写真ファイル添付シート＞に貼り付けてください。備考欄には、撮影対象とした部位、特徴、ポイントなどを簡潔に記載してください。

　該当する写真がない場合は空欄にしてください。縦の写真を横に貼ってもかまいません（備考欄にその旨記載してください）。

受賞作品については、写真集やカレンダー等に使用させていただきますので、鮮明な画像のもの（特に全景等）にしてください。電子ファイルの精度は最低でも解像度300dpi(A5サイズの300dpiなら413万画素、A4サイズの300dpiなら830万画素)以上になる写真ファイルを使用願います。

|  |
| --- |
| その他留意事項 |

○　ご応募いただいた作品のうち、受賞作品については、「写真で見る「木」の施設」木造事例集（冊子）に掲載することになりますが、その際、本様式に記載いただいた内容を掲載させていただく予定にしていますので、予めご了承願います。

○　記載内容について、事務局から詳細な内容の確認や追加の証拠書類等をご依頼する場合がありますので、あらかじめご了承ください。